

平成30年度

事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム 新とみ

短期入所生活介護 新とみ

通所介護 新とみ

ウィング訪問ケアステーション

I. 施設関係

1. 特別養護老人ホーム

(1) はじめに

本年度は定員 40 名に対し、**32 名**の入所者数でした。月平均利用者実人員は **34.1 人**と、昨年と比較し **2.7 人の減少**です。長期入院などによる退所者は **11 名**、新規利用者は **1 名**です。年度末現在の利用者の平均年齢は、男性 **85.9 歳**、女性 **89.0 歳**であり、男女合計の平均年齢は **88.7 歳**です。なお、特養の年間平均稼働率は **85.19%**です。29 年度 92.08%に比べると、稼働率は **7%近く**下がっています。

表 1 前年度との比較 定員 40 名

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
平均年齢	87.4 歳	87.6 歳	88.7 歳
平均介護度	4.34	4.48	4.49
年度末平均人数	36 人	39 人	32 人
延べ定員数	14,600 人	14,600 人	14,600 人
1 日平均利用者数	33.1 人	36.8 人	34.1 人
稼働率	82.65%	92.08%	85.19%

表 2 退所者 平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

退所者	人 数	理 由
死亡	4 名	入院による死亡
死亡	5 名	施設での看取り
入院	1 名	療養型病院へ入院
その他	1 名	在宅復帰→新とみ通所介護へ変更

稼働率減少の理由

- ①本年度は、長く入所生活を送っていた利用者の死亡による退所が次々と続きました。
入院以外は、施設での看取りを行い、看護師・介護職・嘱託医・家族との連携を密にし、長く過ごしていただいた居室にて、最期を迎えてもらうことができました。
- ②新規利用者は 1 人でした。新規利用者については、入所後、環境の変化による心身の変動が見られることが多いが、本年度は環境への適応が順調に行われました。
- ③ 空床利用

新規利用者の声かけにおいては、中央区で入所調整したリストに沿って声かけをするシステムになっているが、この数年入所に時間がかかるケースが多くなっており、在宅での介護を希望するご家族も増えているのが現状です。

声かけにより、断られる理由として

- ・他施設との併願のため、すでに他施設への入所が決まっている
- ・現在入所している施設(有料・老健・グループホーム等)で満足している
- ・まだ在宅で、介護をしていきたい

等、声かけから入所までに時間がかかるため、その間の空床をショートステイで埋める必要があります。

(2) 事業実績について

利用者の平均介護度は29年度の4.48に対し、30年度は**4.49**とやや高くなっています。(別表2参照) 平均介護度が上がっている理由として、利用者の在住期間(平均**4.3年**)が延びていることや、新規利用者においては、医療的ニーズ等を含め、重度者の受入れが主となっていることが挙げられます。特養での対策としては、適切な健康管理下で一層の介護の充実を図るとともに、利用者の事故や病気のための入院を極力抑えることです。そのため

①健康管理の徹底、衛生管理の徹底、日常生活での異常に対する早期発見・早期対応の徹底。

②ハード面の充実として、インフルエンザやノロウィルスの流行に備え、空気除菌清浄機の活用、居室トイレの除菌用ウォシュレット、居室等への除菌剤の配置などを強化しました。

③嘱託医による利用者の心身の定期的な健康管理として

- ・定期的な健康診断、予防注射の徹底による感染症対策
- ・精神科医による精神面のケア、認知症状の緩和
- ・歯科医、歯科衛生士の定期的な往診のもと、口腔内の衛生管理による誤嚥性肺炎予防、嚥下機能の維持

その他、言語聴覚士が機能訓練に加わり、嚥下リハ、言語リハに注力しました。

多職種連携によるケアの体制は、今後も更なる充実を図っていきます。



チェアビクス
尿漏れ予防体操



言語聴覚士による
言語リハビリ



千葉歯科訪問診療
定期的な口腔ケア



有資格介護職による
喀痰吸引

(3) サービスの内容について

本年度は引き続き、食事、入浴、排泄、接遇といった介護の基本業務をしっかりと行うことはもとより、身体拘束廃止、感染症防止、防災、安全対策、環境整備等にも力を入れて取り組みました。

レクリエーションやリハビリテーションの充実ということでは、デイサービスと協働してのレク活動、各種の行事やボランティア、インターンシップの積極的な受入れを行い、利用者の日常生活にうるおいとやすらぎとかがやきが得られるよう努めました。本年度もボランティア、インターンシップとの交流機会を多くもち、普段接することの少ない若年層との世代間交流を通して、利用者の感性に温かい刺激を与えるものとなりました。

レクリエーションでは、セラピードッグ、音楽療法、書道、そろばん、チェアビクス、ダンスセラピー、健康吹き矢等々、心身機能の活性化に重点を置いた活動に意欲的に取り組んできました。また、コミュニケーションロボットの活用は、利用者の精神的ケアに大変有効であり、コミュニケーションロボットとの触れ合いは、利用者、特に認知症利用者にセラピー的効果をもたらし、不安感の緩和や、癒しに活用されました。

リハビリテーションは、機能訓練担当の理学療法士を中心に、他職種との協働により、身体、嚥下、言語等の機能面においてより充実したリハビリを実施することができました。「利用者の自己実現を日々の生活に活かしていく」を目標とし、歩行訓練等の身体リハから言語リハにいたるまで、一人ひとりの個別性を尊重した、きめ細やかなリハビリに取り組みました。

表3 レクリエーションにおける効果

プログラム	心身機能への効果
音楽療法	唱歌、懐メロ等は、認知症状の緩和や精神面への良質な刺激となっている
セラピードック	月に2回のセラピードックは、利用者に寄添うことで癒しや、リハビリの効果をもたらしている
健康吹き矢	楽しみながら、自然に呼吸法を体得できる
書道・そろばん	昔、覚えのある方は自然に筆が動き、指が動き、モチベーションが上がってくる
チェアエクササイズ ダンスセラピー	身体を動かし、自由に伸び伸びと身体を表現でき、終わった後も、爽快感が残っている
アロマセラピー	アロマの香りを楽しみながら、五感に刺激を与えることで感性が豊かになってくる
コミュニケーションロボット・パロ、アイボ	パロとの触れ合いにより、認知症の不安感、不穏を緩和してくれる。アイボは、様々な会話を引き出すきっかけになり、精神面の活性化が見られる



アザラシ型ロボット・パロとの
スキンシップ



イヌ型ロボット・aiboとの
触れ合い

2. 短期入所生活介護

(1) はじめに

ショートステイはキャンセルや特養の空床があり、利用する立場からすれば昨年に続き比較的に利用しやすい状況でした。区内の方については、最長で30日利用を基本としつつ、抽選から漏れた方についても、急なキャンセルや特養利用者の入院により空いたベッドをより多くの方に利用していただくため、FAXなどで空き情報をタイムリ

ーに提供しています。毎月、区外の事業所へ案内を出していることなどから、区外の方の利用も多く、かなりの成果をあげています。

別表 10 に示してあるように、特養・ショート合計の年間稼働率は、前年度 103.48% に対して 30 年度は **102.29%** と約 **1.2% の減少** となっています。ショーステイ単独での年間稼働率は、**216.26%** であり、昨年度より **36.8% 上昇** していることから、特養の稼働率の減少がショーステイのベッド稼働率を上昇させたと言えます。

①周辺環境の変化

月島、日本橋地区の地域密着型特養の新設、区立マイホームはるみの 20 床増設、ショーステイ専門施設の増加等。隣接区においても特養、老健の増加等があり、競争激化となっています。特色・個性のある施設づくりが望まれます。

②地域の課題

- ・認知症独居高齢者の健康管理 食事・入浴・服薬等
- ・認知症高齢者の徘徊・火の不始末等
- ・独居高齢者の引きこもりによる認知症の進行
- ・高齢者世帯における体調管理
- ・高齢者世帯、独居高齢者の金銭トラブル

周辺環境の情報収集・地域の課題を分析し、ニーズを抽出することが重要です。緊急ショート、医療的対応等、多様なニーズにいつでも対応できるだけの層の厚い体制づくりをし、利用者の増員を図っていきます。

表 4 前年度との比較 定員 6 名（空床利用）

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
年度末平均年齢	82.7 歳	82.8 歳	85.4 歳
年度末平均介護度	3.36	2.98	3.11
年度末平均人数	45 人	38 人	59 人
延べ定員数	2,190 人	2,190 人	2,190 人
1 日平均利用者数	13.1 人	10.8 人	13.0 人
稼働率	218.90%	179.45%	216.26%

（２）サービス実施状況

送迎：施設～利用者宅の送迎（ドア ヅ ドアの実現）

エレベーターのない団地等の集合住宅では、階段昇降機（介護ロボット）を活用し、歩行困難な利用者の送迎を可能としました。

介護：身体の状態に応じた食事介助・排泄介助・おむつ交換・体位交換・施設内の移動の介助。

食事：事前の面接時に確認し、身体の状態に適した食事を提供しています。

入浴：週 3 回以上。身体状況に応じ機械浴・介助浴・一般浴にて必要な介助を行っています。

個別機能訓練：小集団訓練の他、希望される利用者には、理学療法士による個別機能訓練が受けられます。その他、レクリエーション・音楽療法・セラピードッグなど。

健康管理：毎日のバイタル測定と日々の服薬管理等の健康管理・指導
胃ろう、ストーマ、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素等の医療的対応。

（３）サービスに関する苦情・相談

次のような苦情の申し出があり、誠意を持って対応し解決しました。

- ・持って行った衣服が紛失した。
- ・退所時に他人の衣類等が紛れ込んでいる。
- ・同じ部屋の利用者の声が大きく夜眠れなかった。

（４）一年の状況と今後の課題

ここ数年の特徴として

①2ヶ月前の申込みが減少

ショートステイの申込みは通常 2ヶ月前を基本としているが、本年度の申込み状況もこれまでの実績の半数くらいでした。理由としては、家族の生活スタイルの変化・ニーズの多様化により「2ヶ月前の申込み」という、決められた枠にはまらない家族のニーズが増えてきたことが考えられます。1ヶ月前頃より徐々に増えている傾向です。

②地域、在宅の課題への対応

在宅における生活スタイルが様々なように、ニーズにおいても多様化してきています。地域・在宅における課題が、そのままショートステイ利用につながっているケースが多く、緊急ショート利用が顕著に増えています。

緊急ショートにつながるケースとして

- ・認知症利用者の徘徊、火の不始末によるボヤ、誤薬、異食等、命の危険に直面したケース
- ・認知症利用者の金銭トラブル
- ・独居の認知症利用者における医療的ニーズ：服薬管理、インスリン等
- ・介護者の病気、入院等

地域・在宅の課題は山積みです。認知症の進行により「これまでできていたことができなくなった」ことへの緊急ショート対応は、年々増加傾向にあります。

在宅利用者、家族を支えるためのショートステイの役割は、今後もますます重要となるでしょう。そのためには、いつでも対応できる体制づくりと、職員への教育が不可欠です。

3. 通所介護

(1) 利用者の状況

23年度はデイサービス見通し編成の年度でした。22年より、23年度にかけて利用者数の落ち込みが著しくみられました。その要因として、利用者のデイサービスへのニーズが、リハビリへと変わっていったことがあげられます。従来型のデイサービスからリハビリ型のデイサービスへと、利用者の意識の変化も顕著であり、家族もまた「リハビリのできるデイサービス」への期待を大きくしました。

①平成23年～リハビリニーズへの対応

平成23年4月より理学療法士を配置し、毎曜日利用者が個別にリハビリを受けられる体制を整えました。周辺環境はリハビリデイと言われるリハビリ専門のデイサービスが増加し、数年来競争激化の状況となりました。現在は、リハビリデイも縮小の傾向見られ、リハビリも一巡化した様相です。

②平成22年～朝食サービス～夕食サービスまで対応

食事サービスにおいては、本年度も朝食サービス、持ち帰り弁当、夕食サービス利用への対応を行い、独居、高齢者家族、就労家族等への支援に努めました。

また、食事サービスだけではなく、食前・食後の服薬管理も行っていることで、在宅の課題軽減の役割を担っています。

食事サービスは、年度によって増減を繰り返しつつも、ニーズは根強く継続されています。

《在宅における課題》

- ・独居のため、食事、服薬管理が難しい→ 体調の悪化、病気の進行
- ・高齢者世帯のため食事作りが困難→ 体調の維持が難しく、異常等にも気づきにくい
- ・家族が就労中→ 食事時間をとるのが難しい、不規則になりがち

表5 朝食サービス・持ち帰り弁当・夕食サービス利用人数

平成29年4月1日～平成30年3月末

項 目	利用人数	延人数
朝食サービス	105 人	769 人
1 ヶ月平均	8.75	64.08
持ち帰り弁当	200 人	1,783 人
1 ヶ月平均	16.67	148.58
配食サービス	1 人	3 人
1 ヶ月平均	0.08	0.25
夕食サービス	112 人	823 人
1 ヶ月平均	9.33	68.58



朝食サービス風景



夕食サービス風景

③医療的対応について

前年度同様、本年度も医療的対応を必要とする利用者が多くいました。

胃ろう 3 名、インスリン 2 名、バルーンカテーテル 2 名、痰吸引 6 名、褥瘡処置 3 名
これら医療的対応に応じるため、看護師 2 名体制をとり、手厚いケアに努めています。今後も医療的ニーズの増大は想定され、デイの職員においても知識とケアの質の向上を図ることが課題です。また、訪問診療を利用している利用者も多く、デイの看護師、相談員と、居宅ケアマネ、訪問診療医、訪問看護師との協力体制づくりに取り組みました。

30 年度の利用実人員は別表 8 のとおり 1,148 人、利用実人員は前年度 1,110 人と比べて 38 人増加しました。稼働率は 78.31%と、昨年より約 8.5%の上昇となっています。増加の理由として、新規利用者においては、医療的ニーズ、在宅における介護者の介護力の低下、家族の就労継続、リハビリ希望等、様々な理由による申し込みがあります。また、延べ利用数は、利用者一人あたりの利用回数が月平均 8.5 回となり、前年よりも約 8%増加しています。利用者の平均年齢は別表 7 のとおり男女合計の平均では 80.1 歳となっています。内訳では男性 79.3 歳、女性 81.0 歳で、前年よりもやや低くなっています。平均介護度は 2.92 と、前年とほぼ同様です。デイサービスに係わる送迎利用率は 98.5%、入浴利用率は 84.6%となっています。前述したとおり、特養・ショートに関しては既に 100%以上の稼働率であるので、施設の収入を伸ばすにはデイサービスの稼働率を上げることが急務です。

表 6 前年度との比較 定員 34 名

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
年度末平均年齢	79.8 歳	80.6 歳	80.1 歳
年度末平均介護度	2.95	2.91	2.92
実人数	1,237 人	1,110 人	1,148 人
延べ定員数	12,410 人	12,410 人	12,410 人
1 日平均利用者数	29.2 人	24.1 人	26.6 人
稼働率	85.91%	70.86%	78.31%

(2) 運営状況

①行事の実施

開設当初より、利用者の方に生活の豊かさとメリハリを持っていただくために、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた日課活動を取り入れるとともに、特養と合同でイベントを開催しています。

日々のプログラムは、音楽療法、セラピードック、書道、朗読、ファッションショー、そろばん教室、介護予防運動、健康吹き矢、アロマセラピー、ダンスセラピー、リハビリヨガ等、地域や企業のボランティアの支援のもと息長く継続されています。プログラムは特養、デイ合同のレクが多くあり、重度、軽度に関わらず、利用者の心身機能の活性化に大変効果をあげています。また、本年度もペッパーとのレクリエーションの時間を多く持ち、歌やゲーム、リハビリ等、ユニークなコミュニケーションタイムを創ることができました。コミュニケーションロボットとのかかわりは、海外メディアにも多く取り上げられています。



会話ロボット・ペッパーによる
脳トレーニングレクリエーション



口腔ケアをアシストしてくれる
ロボホン

バスハイクは、日頃外出する機会の少ない利用者に好評を博している外出レクです。お花見、紅葉狩りの他、毎回利用者の希望を取り入れた場所を企画し、感性豊かな時間を創るよう努めています。目標は「日々、感動を届ける」 デイサービスで過ごす時間にひとつでも多くの感動を利用者に届けることができるよう、今後も目標としていきます。



春のバスツアー お花見



秋のバスツアー 紅葉狩り



季節のかざりものづくり



ボランティアの方によるコンサート



セラピードッグとのふれあい



チェアエクササイズでのびのびと



デイルームでのアットホームな家族会
～ジャズ演奏でくつろぎのひとときを～



表 7 主な行事

4 月	・お花見 桜を求めて、墨田川から千鳥ヶ淵まで、お花見ドライブを楽しんだ。その他、近所の京橋公園にてお花見を実施、肌で感じるほどの満開の桜に利用者もうっとり。
5 月	・鯉のぼりづくり、かぶとづくりにと、童心に還って楽しんだ ・思い出の地巡りツアー 利用者の方の思い出の場所を巡った
6 月	・バスハイク 浅草雷門、スカイツリー、アサヒビール本社、墨田公演あじさい観賞、他 下町の季節感溢れる風情に参加者は感激していた。
7 月	・盆踊り大会（地区の女性ボランティア 5 名） 和太鼓に合わせて、浴衣姿のボランティアの季節感溢れる盆踊り、利用者も参加しての賑やかなひと時だった ・スイカ割り大会 デイ・特養合同のスイカ割りは、夏の風物詩として恒例となった。
8 月	・暑気払い 日本橋演芸会の方たちと、暑さを忘れての演芸大会 南京玉すだれ、獅子舞等、懐かしい演芸に郷愁を感じる利用者も多かった。
9 月	・敬老の日 利用者、職員と敬老の日をお祝いした。久寿玉を長寿の利用者に割ってもらい、健康寿命の大切さを皆で話し合うひと時を設けた。
10 月	・秋の大運動会 特養、デイ合同の大運動会は、利用者が熱中するイベントだった。
11 月	・紅葉狩り 北の丸公園から神宮外苑のイチョウ並木までバスハイク。思い出深い利用者も多く、感動のひと時だった。
12 月	・クリスマスコンサート ライオンズクラブ主催による、恒例のクリスマスコンサート。「てんてこ一座」が参加し、それは華やかなクリスマス会だった。
1 月	・新年会 利用者、職員との新年会は、カラオケによる紅白歌合戦、すごろく、福笑い等、伝統的な正月遊びに興じた。 ・ミステリーツアー 東京ゲートブリッジまでバスハイク。新年の澄み渡った彼方に初富士がくっきりと浮かび、忘れられないバスハイクとなった。
2 月	・2 月 3 日の節分は、職員が鬼になって利用者のフロアを駆け巡った。「鬼は外ー 福は内ー！」と、利用者の元気な声が、館内に飛び交った。
3 月	・家族会（参加家族他 17 名） 新とみデイルームでの家族会は、利用者と家族、スタッフとのアットホームな家族会を開催できた。本年度は、子育て応援事業：子ども英会話教室のボランティアにも参加してもらい、多世代に渡っての有意義な交流が行われた。

②送迎について

階段昇降機(スカラモービル)を活用することにより、エレベーターのない団地等の集合住宅に住む利用者のデイサービス利用を可能にすることができました。歩行困難なため、階段昇降がネックとなって外出ができなかった利用者を、デイサービス利用に繋げることができたことは、利用者の自己実現のひとつとして大きな成果でした。階段昇降機の支援を必要とする利用者は徐々に増え続け、毎日2名～4名の利用者の昇降を行っています。

送迎においては、中央区他、江東区、港区、千代田区、世田谷区まで実施しており、98.5%の送迎率となっています。



スカラモービル
コンパクトタイプ



スカラモービル
車イスタイプ

③入浴について

デイサービス利用理由の大きなひとつとして入浴があります。その期待に応えるため希望者には基本的には毎回入浴を提供しており、入浴利用率は84.6%です。身体状況に応じた入浴形態で対応しています。皮膚の異常、バイタルの変動等、入浴時に気づくことが多く、看護が2名体制で対応しています。

④機能訓練

理学療法士による個別機能訓練を実施しています。リハビリテーション病院を退院後通われている利用者も多く、身体機能の維持に努めています。歩行アシスト、免荷式歩行器ポポ、デジタルミラーといったリハビリ・ロボットを活用しながらの訓練は、利用者の方のモチベーションも向上し、リハビリ効果を見せています。

4. 特養・デイサービス合同

(1) 各種委員会

各種委員会は役割と人員を常に見直し

- ①年中行事委員会 ②栄養委員会 ③身体拘束廃止委員会 ④排泄・褥瘡委員会
⑤ケアプラン委員会 ⑥感染症対策委員会 ⑦事故防止対策委員会 ⑧防災対策委員会
⑨リハビリ委員会 ⑩環境・口腔ケア委員会 ⑪安全・衛生委員会(介護職のための)
⑫ロボット委員会

等を開催しました。平成 20 年 2 月からは、毎月 1 回の各委員会の会議を開催しています。

(2) 行事

四季折々の各種行事は、3 階フロアを利用して、特別養護老人ホーム・短期入所・通所介護利用者合同で実施する形をとり、年間を通して各種行事に取り組みました。

(3) 防災訓練

防災管理者及び京橋消防団には、現在 2 名の職員が入団しています。新富町会の防災訓練に参加するなど、防災への知識・技術の向上に務めました。新規に採用された職員には、消防機器訓練を随時実施しています。さらに、京橋消防署への研修参加の他、地域等の協力を得て、毎月 1 回「震災・消防訓練」を実施しています。

(4) 職員研修

4 月～3 月：毎月 1 回 早朝研修、夕方研修

4 月～3 月：職員育成支援事業：登録講師派遣事業(東京都福祉人材センター)研修

5 月： 白十字による講師派遣研修

4 月～3 月：幹部・リーダー層を中心とした社外研修

本年度もキャリア段位制度を積極的に推進し、アセッサーの育成に努めました。

職員の資格取得については、法人のバックアップもあり職員の意欲の向上が見られます。

表 8 資格取得等に向けた職員研修(平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月)

研 修 名	特 養	通 所	訪 問
アセッサー研修 (合計 5 名取得)	1 人	0 人	0 人
認知症実践者研修	1 人	1 人	0 人
ユニットリーダー研修)	2 人	0 人	0 人
看取り研修	2 人	0 人	0 人
東京都福祉施設等感染症対策指導者養成研修	1 人	0 人	1 人
関東嚙下訓練技術者講習会	1 人	1 人	0 人
口腔ケア研修会	2 人	1 人	0 人

表9 社 内 研 修

No.	名称	開催日	人数	備考
	早朝研修 7:30～8:00 夕方研修 18:00～19:00	平成 30 年 4 月初～ 平成 31 年 3 月末	特養 デイ	講師：勝野顧問 常勤・非常勤対象
3-1	事故防止について	4/2	12 人	特養 4 人 デイ 8 人 栄養士 1 人 訪問 1 人
3-1-1	看取り介護について	4/9/ 4/16 4/23	28 人	特養 15 人 デイ 9 人 栄養士 1 人 訪問 3 人
3-2	認知症高齢者への理解とケア	5/ 7	13 人	特養 4 人 デイ 8 人 栄養士 1 人 訪問 2 人
3-3	平成 29 年度 事業報告書について	6/4	14 人	特養 5 人 デイ 6 人 栄養士 1 人 訪問 2 人
3-4	目脱水・熱中症・水分補給について	7/2	14 人	特養 4 人 デイ 7 人 栄養士 1 人 訪問 2 人
3-5	特別養護老人ホームにおける褥瘡ケア	8/6	19 人	特養 7 人 デイ 8 人 栄養士 1 人 訪問 3 人
3-6	プライバシーポリシーについて	9/3	16 人	特養 6 人 デイ 7 人 栄養士 1 人 訪問 2 人
3-7	身体拘束廃止について	10/8	16 人	特養 6 人 デイ 8 人 訪問 2 名
3-8	施設サービスにおける苦情解決	11/5	17 人	特養 4 人 デイ 10 人 訪問 3 人
3-9	ノロウイルス・インフルエンザ感染症の予防と対策	12/3	15 人	特養 4 人 デイ 8 人 栄養士 1 人 訪問 2 人
3-10	福祉施設におけるリスクマネジメント	1/ 7	14 人	特養 5 人 デイ 6 人 栄養士 1 人 訪問 2 人
3-11	接遇・サービスマナーについて	2/4	15 人	特養 4 人 デイ 7 人 栄養士 1 人 訪問 3 人
3-12	記録の書き方について	3/4	13 人	特養 4 人 デイ 7 人 栄養士 1 人 訪問 3 人
	登録講師派遣事業 新人研修・振り返り研修			
3-13	排泄ケアにおける感染症予防 (白十字主催)	5/9、 5/16、 5/23 5/30	13 人	特養 13 人(新人 1) デイ 13 人(新人 2)訪問 3 人
3-14	高齢者の柔らかか食・栄養補給食 (キューピー主催)	6/14	18 人	特養 5 人 デイ 5 人 栄養士 1 人 訪問 3 人
3-15	車椅子上でのポジショニング (外部講師)	8/23	24 人	特養 5 人 (新人 1)デイ 6 人 栄養士 1 人 他施設 4 人

3-16	持ち上げない介護 (外部講師)	12/11	13人	特養 5人 デイ 5人 訪問 2人 (新人 2人)
------	--------------------	-------	-----	------------------------------------



特養・デイ社内研修



特養・デイ合同感染症対策研修



特養・デイ合同介護技術研修

(6) ボランティア・実習生の受け入れ

地域交流、デイサービスの日課活動の潤活化および初任者研修の実習の場として受け入れをしました。

定期的なボランティアとして朗読ボランティア、書道ボランティア、傾聴ボランティア等が年12回。その他、デイでは地域の方や、外国の方を含めたボランティア団体が利用者の話し相手、フロアの手伝いボランティアとして定期的に訪問してくれています。特養においても、第二・第四水曜日に洗濯物整理のボランティアをはじめ、地域の多くの方々の協力、支援を受けています。

実習生は、介護福祉士取得に向けた実習生、教員免許取得実習生を多く受け入れました。また、インターンシップ、中学生ボランティア、イナッコ教室ボランティア(夏休み社会体験)等、本年度も積極的に受け入れています。昨年度に引き続き「地域公益活

動」の一環として「春休み福祉体験合宿」の取組みがあり、中央区内の社会福祉法人との合同で、小・中学生3名に現場実習を体験してもらいました。

実習生、インターンシップ、ボランティアとの交流は、日頃触れることの少ない若年層との世代間交流として、利用者一人ひとりに大変良質な刺激をもたらせる結果となり、今後も積極的に受け入れてゆく方向です。

表 10 平成 30 年度・実習生等の受け入れ実績

項 目	人 数 (延)
介護福祉士取得	10 人
教員免許取得希望者介護体験	60 人
職場体験	12 人
インターンシップ	28 人
小・中学生ボランティア実習	4 人
イナッコ教室ボランティア	7 人
春休み福祉体験合宿	3 人

(7)本年度の取組みについて

①一般財団法人 熊崎報恩財団より受賞

平成 30 年度の受賞に選定された施設として、平成 30 年 12 月 5 日 熊崎報恩財団より表彰されました。

②業務効率への取組み

厚労省依託事業(N T Tデータ経営研究所コンサルティング受け入れ事業)

- ・事業名：介護サービス事業(施設サービス分)における生産性向上に資するガイドライン
- ・期 間：2018 年 10 月 29 日～2019 年 1 月 31 日
- ・目 的：業務改善の手引書作成することで、生産性向上を目指す

表 11 プロジェクトチームの構成

プロジェクト リーダー	チーム上の役割	事業者や法人における役職
○	総責任者	施設長
	集計とりまとめ	主幹
	実務担当	介護職主任
	実務担当	介護職副主任
	事務職	事務リーダー

プロジェクトチームを構成し、5 回のミーティングを実施、1～8 までの項目を盛り込んだ手引き書を作成しました。

1. 職場環境の整備
2. 業務の明確化と役割分担 ①業務全体の流れを再構築
3. 業務の明確化と役割分担 ②テクノロジーの活用
4. 手順書の作成
5. 記録・報告様式の工夫
6. 情報共有の工夫
7. O J T の仕組みづくり
8. 理念・行動指針の徹底

《成 果》

業務改善の手引き書を作成したことで、介護サービス事業における生産性向上に資するガイドラインを構築しました。

③介護ロボット等モニター調査の取組み

テクネイド協会委託事業

対象機器 A：うららかGPSウォーク・トラッキモ
 B：排泄モニタリングシステム Helppad



A GPS ウォーク・トラッキモ

B 排泄モニタリングシステム Helppad

表 12 実施状況及び結果報告 A

担当者 (資格・経験)	ロボット委員会リーダー及び 構成メンバー	資格：初任者研修・介護福祉士 相談員・ケアマネ 経験：4年～10年
企業名/機器名	((株))トラッキモGPS	うららか GPS ウォーク・トラッ キモ
実施期間	平成 31 年 2 月 1 日～ 平成 31 年 2 月 20 日	延長あり

調査対象とした介護サービス	種類：ショートステイ	内容：短期入所生活への介護サービスの提供
機器を利用した対象者の状態像/人数	帰宅願望強く離苑の可能性があり、安全確保が優先される	3人：認知症による帰宅願望、徘徊あり
調査方法	対象利用者にGPS機能付靴を履いてもらう	Webによるトレース画面で履歴を収集できる
機器の利用効果	介護者：利用者の離苑による介護者の心身負担軽減、労力、時間ロスの軽減	被介護者：結果として、被介護者の心身負担が軽減され、安全確保が速やかに実施される
調査結果	施設内での利用者所在、位置確認は困難であった	→施設内にいる段階で、外に出る状況を検知できるのが望ましい

表 13 実施状況及び結果報告 B

担当者 (資格・経験)	ロボット委員会リーダー及び構成メンバー	資格：初任者研修・介護福祉士 相談員・ケアマネ 経験：4年～10年
企業名/機器名	パラマウントベッド(株)	排泄モニタリングシステム Helppad
実施期間	1月21日～2月8日	延長あり
調査対象とした介護サービス	種類：特別養護老人ホーム	ベッド上でのオムツ交換
調査対象とした利用者の状態像/人数	介護5：加齢による身体機能の低下で、オムツ着用	2人：ベッド上でのオムツ交換
調査方法	Helppadのセンサーによる、検知時刻の自動記録	結果に基づく排泄パターンのグラフの自動作成
機器の利用効果	介護者：機器のデータと日々の介護を通じて得られた体感が一致したことにより、体感がデータで裏付けられた。	被介護者：Helppadは非装着であり、利用者への心身負担はない。定時のオムツ交換から随時のオムツ交換により、快適な状態でいられる。
調査結果	取得データのグラフ化を活用することで、定時のおむつ交換から個別排泄ケア計画の作成が可能である。これにより、時間の配分が可能となり、業務効率の向上が期待できる。	今後もサンプルを増やし、モニター評価を継続することで、より精度のよいデータが取得可能である。

8) 視察・取材

本年度も前年度に増して、施設の視察、取材に、国内外多くの人が訪れた。年間を通しての視察・取材は113件である。

目的は主に介護ロボット、リハビリロボットであったが、日本のロボット開発技術からAIにいたるまで、年々海外からの関心の高まりが感じられた。



イスラエル保健省次官 来苑



PAHO（汎アメリカ保健機構） 来苑



TBS NEWS 23 取材



NHKBS モーリー・ロバートソン取材



英国デイリーテレグラフ 取材



オランダ トゥエンテ大学 来苑

表 14 見学 一覧

日付	時間	国名	組織名	人数
4月3日	1330-1630	シンガポール	シンガポール労組 自治労	5名+2名+通訳1名
4月10日	1400-1500		NHK モーリス・ロバートソン	
4月11日	1400-1500	フランス	個人2名	2名+通訳
4月12日	1000-1130?	イスラエル	大使館次官他	6-7名

4 月 17 日	1400-1530	韓国	釜山市、福祉開発院	7 名
4 月 25 日	1430-1600		AUG 生命グループ	7 名
5 月 9 日	1400-1530		個人（西沢様）	4 名
5 月 12 日	1410-1530		厚労省	8 名
5 月 14 日	1400-1530		日立製作所・大塚商会・日立システムズ	
5 月 15 日	1500-1600	韓国	安養市	6 名+通訳
5 月 16 日	1000-1130	ドイツ	バイエルン州議員（中央区議紹介）	5 名+通訳+日本人 2 名
5 月 21 日	1000-1130		聖カタリナ病院	3 名
5 月 28 日	1500-1630		福祉医療機構	6 名
5 月 29 日	1400-1530		インタービジョン	
5 月 30 日	1400-1530		柴田	4 名
5 月 31 日	1000-1130	米国	サンディエゴ大学	36 名+2 名
5 月 31 日	1130-1300	中国	田中理+magicare	4 名
6 月 4 日	1000-1130	ノルウエー	ベルゲン大学+健康長寿医療センター	5 名
6 月 7 日	1000-1200 1400-1500	オランダ	オランダ TV	7 名
6 月 11 日	1000-1130		J F E ライフ	3 名
6 月 17 日	1000-1130	フランス	フランス TV TF 1	
6 月 19 日	1500-1630	韓国	韓国保健福祉省	25 名
6 月 20 日	1400-1530	英国	イギリス記者	
7 月 9 日	1330-1500	英国	ジャーナリスト	1 名
7 月 10 日	1000-1130	中国	マカオ政府	26 名
7 月 11 日	1000-1130	ベルギー	ベルギー TV	4 名
7 月 13 日	1000-1100	シンガポール	シンガポール国立大学+政府	12 名+1 名
7 月 17 日	1000-1130	米国	PAHO（WHO 米国代表）	3 名+1 名
7 月 25 日	1300-1500	米国・台湾	ミシガン大学・長庚大学+東京都健康長寿医療センター	5 名+1 名
7 月 30 日	1400-1530	英国	B B C 記者	3 名
8 月 1 日	1400-1530	台湾	シンクタンク	4 名+2 名
8 月 4 日	1000-1130	ヨルダン	ヨルダン記者	1 名+1 名
8 月 9 日	1400-1600		厚労省	7 名
8 月 10 日	1400-1500	英国	ジャーナリスト（ハフントンポスト）	1 名+1 名

			スト)	
8月17日	1000-1130	香港		4～5名
8月22日	1030-1130		財務省	6名
8月21日	1400-1500	韓国	梨花女子大学	20名
8月24日	1000-1130		横浜市金沢区民生委員	3名
9月7日	1000-1130	中国	外務省招聘 中国人記者	5名+1名
9月11日	1400-1500	タイ	国際開発機構	10名+1名（通訳）
9月12日	1400-1500	メキシコ	外務省 ヘナロ・ロサーノTVキャスター（国際政治学者）	2名+1名（通訳）
9月13日	1000-1130		鶴ヶ島市 民生委員	24名
9月17日	1030-1200	オランダ	トウエンテ大学（930より講演）	32名
9月20日	1400-15:30		同志社女子大	17名
10月4日	1400-1500	米国	ボストン イラストレータ	1名
10月5日	1000-1130	韓国	保健福祉部	6名 ★駐車場1台
10月5日	1400-1530		社会医療法人 昌林会他	6名
10月8日	1000-1130	中国	中国保健協会他+田中理	10+1名
10月8日	1400-1530	オランダ	医療他	12名
10月9日	1000-1100	英国	駐日大使、社会技術関係	7名 ★駐車場1台
10月9日	1330-1530	香港	香港仔坊会	8名
10月10日	1400-1530	香港	香港聖福利協会	24名+2名（通訳）
10月11日	1030-1200		社会福祉法人 一乗寺友愛会	2名
10月11日	1600-1700	中国	国家リハビリ補助器具研究センター	8名
10月12日	1000-1130		花輪ふくし会	17名
10月12日	1430-1600	香港	鐵樹銀花基金株式会社	4名
10月12日			新世界發展有限公司	5名
10月13日	1400-1530	スウェーデン	QOL（生活の質）をサポートするPJ	8名
10月15日	1330-1500		滋賀社協	2名
10月17日	1545-1700	台湾	日本台湾交流協会	15名（日本人3名）

10 月 22 日	1300-1400	台湾	リバティ池田会長紹介	3 名＋通訳＋池田氏
10 月 23 日	1400-1600	台湾	台湾武田薬品	28 名＋通訳 2 名
10 月 24 日	1400-1530	ドイツ	ラジオ劇作家	2 名
10 月 24 日	1400-1530		中央区社協 虹のサービス	1 名
10 月 27 日	1000-1130	メキシコ	T V アステカ	5 名（窓口 1 名 通訳 1 名含む）
10 月 29 日	1330-1500	米国	ナショナルジオグラフィック カ メラマン	1 名＋通訳 1 名
10 月 30 日	1330-1500		高崎健康福祉大学＋留学生 （ベトナムホーチミン医科歯科大 学 ・フィンランドヤムク大学）	5 名
11 月 1 日	1330-1500	韓国	JTBC テレビ	3 名
11 月 2 日	1030-1200		柴田先生（ロボットセラピー研究 会）	16 名（外国人 1 名含む）
11 月 2 日	1400-1600	北欧	厚労省：北欧 4 国高齢化セミナー	10 名
11 月 6 日	1000-1130	英国	B B C 記者	2 名
11 月 9 日	1400-1530	韓国	ウソン大学	6 名
11 月 12 日	1600-1700		芝浦工大 松日楽教授	8 名
11 月 13 日	1400-1530	台湾	台湾大学病院	10 名
11 月 14 日	1000-1130	台湾	福祉関係者	20 名
11 月 15 日	1000-1130		早稲田大学建築学科小林恵吾研究 室	5 名
11 月 15 日	1500-1700		T B S ニュース 2 3	3 名
11 月 16 日	0930-1045	香港	香港社創基金	3 名
11 月 19 日	1400-1530		厚労省社会統計室	9 名
11 月 27 日	1000-1130	ポーランド	アダム・ミッキエヴィッチ大学(民 俗学)	1 名
12 月 4 日	1000-1130	中国	河南省鄭州市亜新グループ董事長	8 名（通訳、日 本人 2 含む）
12 月 4 日	1400-1530	ベルギー	ラ・リーブル・ベルジック紙記者	1 名＋1 名？
12 月 6 日	1000-1130	韓国	韓国医療（メトロ）新聞	2 名
12 月 6 日	1400-1530	オランダ	学生	2 名
12 月 7 日	1000-1130		ソニーイメージングプロダクツ	3 名

12 月 9 日	1400-1530	オランダ	アムステルダム大学 学生	2 名
12 月 11 日	1100-1200		ソフトバンクロボティクス	5 名
12 月 13 日	1400-1530		社会福祉法人のぞみ会	6 名
12 月 16 日	1000-1130		高崎健康福祉大学	9 名
12 月 18 日	1000-1130	中国	上海八潤実業（集団）有限公司 董 事長	7 名（通訳、田 中理含む）
1 月 22 日	1000-1130	韓国	サムソン病院ナドンヨル教授	3 名
1 月 23 日	1500-1630	韓国	韓国嘉泉大学（日韓交流協会）	20 名＋通訳 2 名
1 月 24 日	1000-1130	韓国	韓国東新大学 保健福祉大学	27 名＋通訳 2 名
1 月 24 日	1400-1530	イタリア	ジャーナリスト	2 名（通訳 1 名 4 含む）
1 月 28 日	1000-1130	カナダ	オードリー・ミラー	2 名
1 月 29 日	1000-1130		北九州産業学術推進機構	3 名
2 月 7 日	1400-1530		厚労省大臣官房国際課	4 名→5 名
2 月 12 日	1400-1530	ドイツ	ドイツ T V 局 R T L	3 名程度
2 月 16 日	1400-1500	ドイツ	外務省招聘 ドイツ人記者：南ド イツ新聞	1 名＋通訳 1 名
2 月 18 日	1430-1600		高崎健康福祉（フィンランド：台 湾）	8 名
2 月 19 日	1000-1130		厚労省労働政策担当参事官室	4 名（5 名？）
2 月 19 日	1430-1530	ブラジル	ブラジル人記者	1 名＋通訳 1 名
2 月 27 日	1400-1530	ロシア	ロシア第一 T V	8 名（通訳 2 名 含む）
3 月 1 日	1000-1130	ドイツ	ドイツ T V 局 PR07（プロジーベン） ガリレオ	5 名
3 月 7 日	1400-1530		東京大学政策ビジョン研究センタ ー	12 名
3 月 9 日	1000-1100	ブルキナフ アン	外務省招致新聞社「シドワヤ」社 長	3 名（記者 1、 通訳 1 外務省 1）
3 月 10 日	1330-1500	ドイツ	高崎健康福祉（ドイツ）	ドイツ学生 2 名、ドイツ教員 2 名、本学学生 5 名、本学引率 2 名 合計 11 名

3 月 18 日	1330-1500	フランス	柴田先生ご紹介	22 名(通訳 2 名含む)
3 月 21 日	1330-1500	米国	ハーバード公衆衛生大学院	14 名(日本人 4 名 米国 10)
3 月 25 日	1500-1630		西日本至福会	3 名
3 月 26 日	1030-1200	フランス	柴田先生フランス エアリキード	7 名 (通訳含む)
3 月 28 日	1400-1530	中国	清大ケンブリッジ医療学院	34 名(通訳 2 名含む)

(9) 地域公益活動

①東京子育て応援事業

平成 28 年 6 月～平成 30 年 3 月末の 2 ヶ年にかけて東京都の助成事業「東京子育て応援事業」に取り組んできましたが、助成期間を過ぎた後も継続して運営してきました。平成 30 年 4 月からは、法人の独自事業として「子ども英会話教室」を開催し「子どもそろばん教室」「子ども食堂」と併せて、地域の子どもたちの安心・安全な居場所づくりとして運営を展開してきました。

②平成 30 年度子供が輝く東京・応援事業

「成果連動型助成(既存の取組みレベルアップ)」に選定

平成 30 年度子供が輝く東京・応援事業に選定されました。成果連動型助成という、成果に応じて、1/4, 3/4 と助成が連動していくため、成果をより見える化していかなければならない取組みです。

- ・事業実施期間：平成 31 年 4 月～令和 3 年 3 月 31 日
- ・実施事業名【未来の社会で輝ける子育て支援事業の実現】
- ・事業内容

本事業は、地域の学齢期(小学生)の子ども達が様々な体験を通して、未来の社会の中で輝くことのできるような子育て支援を実施します。

「子ども食堂」では、地域の子ども達の食の貧困、孤食等の問題を解決すると同時に、同世代、多世代に渡る世代間交流を図り、コミュニケーションを通して食事への楽しみ、興味を覚えることで、子ども達へ豊かな感性と、健康的な心身を育むことを目的とします。更に学習支援として「子どもそろばん教室」「子ども英会話教室」「介護現場の体験学習」を提供します。子ども達が「体の力・学ぶ力・心の力」を

身につけ、未来の社会の中で、これら体験、経験を輝かせることができるよう、育成支援をしていきます。

・既存事業との違い

これまでの事業では「子どもの居場所づくり」としての役割を担ってきたが、本事業では、子ども達一人ひとりの心身に視点をあて、食育、体験学習等の様々なテーマを提供することで、失敗と成功の両方から学ぶことのできる、自己肯定感の高い子どもの育成支援を実現していきます。

・プログラム

1) 1ヵ月め：アンケートの作成

登録書の配布

地域への説明会(学校、保護者等)

2) 2ヵ月め：評価指標のデータの収集方法と書式の整理

登録書の受領

体験学習の実施

3) 3ヵ月め：指標データの評価と進め方の見直し・改善案の検討

子ども英会話教室・そろばん・みんなで食事

開智日本橋学園・上智大学留学生のボランティアの皆さんと





5. 訪問ヘルパーステーション

(1)はじめに

平成 28 年 3 月 1 日、新とみ併設として「ウイング訪問ケアステーション」を開設しました。本年度も新規利用者の開拓に力を入れましたが、移動時間の効率性・ヘルパーの負担軽減・業務効率を考え、近隣でのサービス開拓に注力いたしました。

- | | |
|-------------|---|
| 1. サービス提供時間 | 8 時 30 分～18 時(時間外については応相談) |
| 2. 実施地域 | 中央区・港区・千代田区・江東区 |
| 3. サービス内容 | 身 体：排泄介助、オムツ交換、食事介助、口腔ケア等
生活援助：掃除、買い物、デイサービスの送迎支援等 |
| 4. 本年度利用者数 | 61 人 昨年度 24 人 |

5. 新規利用者数 26 名 昨年度 10 人

表 15 要介護度別利用者状況

要介護度	29 年度利用人数	29 年度延人数	30 年度利用人数	30 年度延人数
要支援 1	1 人	51 人	3 人	151 人
要支援 2	1 人	12 人	6 人	147 人
要介護 1	4 人	104 人	9 人	195 人
要介護 2	4 人	501 人	11 人	543 人
要介護 3	6 人	436 人	9 人	747 人
要介護 4	2 人	16 人	7 人	109 人
要介護 5	7 人	1,240 人	7 人	748 人

①利用者の状況

表 15 にあるように、本年度も介護度の高い利用者が半数以上を占めました。昨年度よりも新規利用者が増え、利用者も多くなっています。

在宅においては、介護度の高い利用者が訪問介護サービスを利用しながら在宅生活を維持しており、利用者はもとより、家族の生活を支える上でも訪問介護は重要な役割を果たしています。

今後、訪問看護、訪問診療等様々なサービス提供事業者との連携が不可欠であり、情報共有を図りながら、清潔かつ安心・安全な在宅生活の維持に努めます。

②地域・在宅の課題

- ・在宅における、劣悪な療養環境の問題
- ・認知症状の進行におけるもの盗られ妄想による、金銭トラブル
- ・近隣住民とのトラブル
- ・家族の介護ストレスによる心疾患

これら地域・在宅における課題は、訪問ヘルパーが関わるケースも多々あり、研修を始めとした教育は必須であり、質の高いサービス提供が急がされます。

(別表1)

< 年度末平均年齢 >

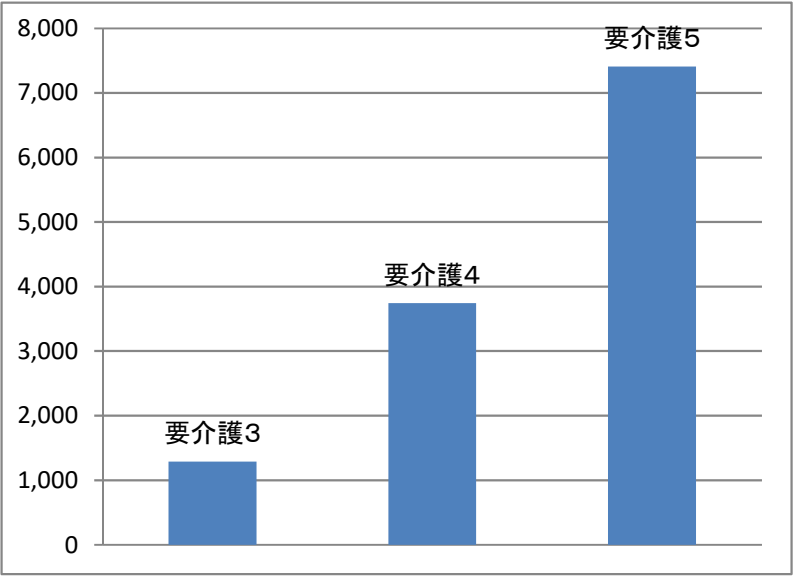
	性別	人数	平均年齢	年齢分布
特養	男	4名	85.9	79～89
	女	25名	89.0	78～99
	(全体)	29名	88.7	78～99

(別表2)

< 月別利用者の状況 >

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養 (定員40名)	要介護3	90	93	90	93	93	101	124	120	124	124	112	124	1,288
	要介護4	330	319	285	341	341	330	314	316	330	305	253	277	3,741
	要介護5	736	676	602	679	673	596	616	628	611	574	497	521	7,409
	計	1,156	1,088	977	1,113	1,107	1,027	1,054	1,064	1,065	1,003	862	922	12,438
	要介護平均	4.56	4.54	4.52	4.53	4.52	4.48	4.47	4.48	4.46	4.45	4.45	4.43	4.49
	実人員	39	39	37	37	36	36	36	36	36	33	32	32	429
	述べ定員数	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,120	1,240	14,600
	1日平均利用者数(人)	38.5	35.1	32.6	35.9	35.7	34.2	34.0	35.5	34.4	32.4	30.8	29.7	34.1
	稼働率	96.33%	87.74%	81.42%	89.76%	89.27%	85.58%	85.00%	88.67%	85.89%	80.89%	76.96%	74.35%	85.19%

(別表3)



(別表4)

< 年度末平均年齢 >

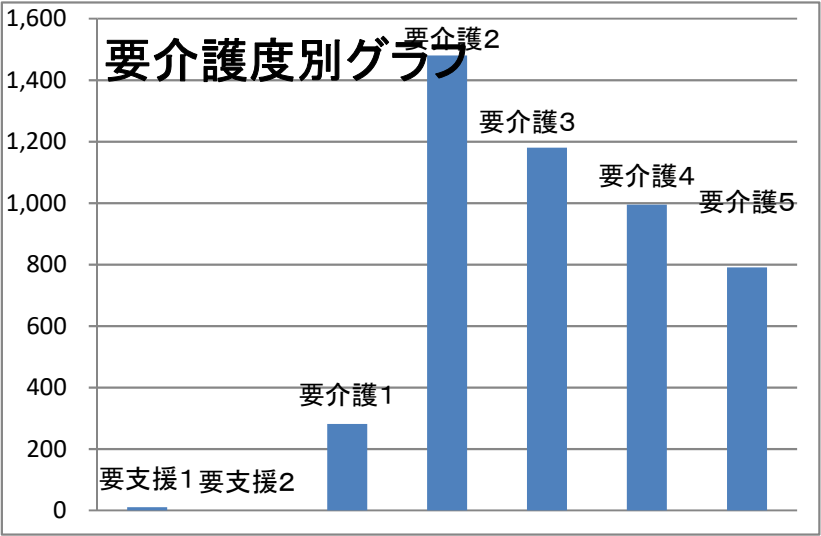
	性別	人数	平均年齢	年齢分布
ショートステイ（介護予防含む）	男	24名	86.0	72～97
	女	35名	85.0	66～99
	（全体）	59名	85.4	66～99

(別表5)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ショートステイ（介護予防含む）（定員6名）													
	要支援1				10								10
	要支援2												0
	要介護1	19	15	10	14	34	26	24	17	19	33	35	281
	要介護2	88	96	165	190	124	122	109	95	121	133	112	1,480
	要介護3	65	74	75	60	82	100	120	101	119	132	133	1,180
	要介護4	59	80	67	53	77	80	85	96	94	99	93	995
	要介護5	45	36	49	65	78	44	61	78	80	78	86	790
	計	276	301	366	382	405	372	399	387	433	475	459	4,736
	要介護平均	3.08	3.09	2.95	2.91	3.04	2.98	3.13	3.32	3.22	3.12	3.18	3.11
	実人員	37	37	46	48	53	50	47	43	49	57	54	580
	延べ定員数	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	168	2,190
	1日平均利用者数(人)	9.2	9.7	12.2	12.3	13.1	12.4	12.9	12.9	14.0	15.3	15.8	13.0
	稼働率	153.33%	161.83%	203.33%	205.38%	217.74%	206.67%	214.52%	215.00%	232.80%	255.38%	273.21%	216.26%

(別表6)



(別表7)

< 年度末平均年齢 >

	性別	人数	平均年齢	年齢分布
ディ サー ビス （ 介 護 予 防 含 む ）	男	44名	79.3	60～96
	女	37名	81.0	59～94
	（全体）	81名	80.1	59～96

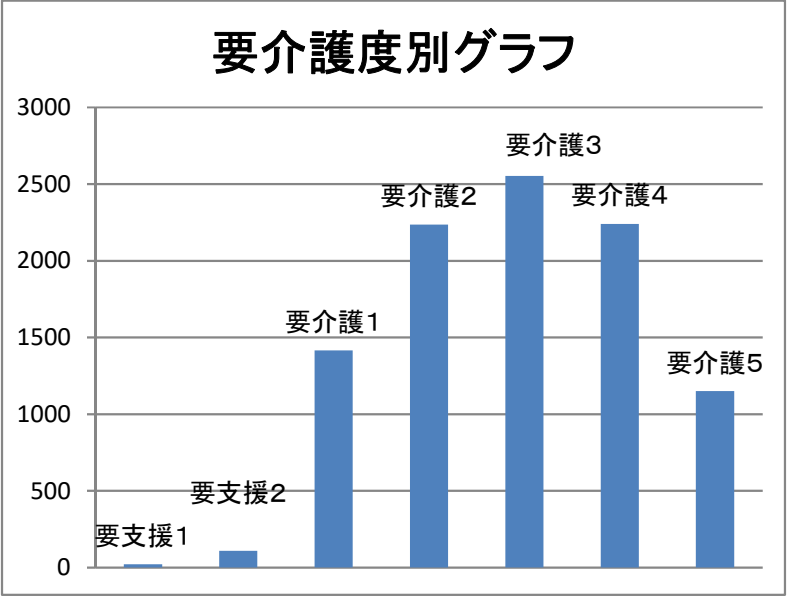
(別表8)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ディ サー ビス （ 介 護 予 防 含 む ） （ 定 員 3 4 名 ）	要支援1	5	2	3	4	2						4	20
	要支援2	21	9	7	9	7	8	7	7	8	7	12	109
	要介護1	74	79	95	114	110	108	143	147	134	139	149	1,415
	要介護2	183	165	203	215	221	195	177	186	178	160	161	2,234
	要介護3	120	174	176	201	209	216	242	250	243	215	274	2,552
	要介護4	168	213	239	211	215	200	180	155	157	150	189	2,239
	要介護5	77	86	72	95	96	84	103	111	119	116	107	1,149
	計	643	731	794	848	862	812	816	827	839	787	896	9,718
	要介護平均	2.92	3.04	2.96	2.92	2.93	2.92	2.87	2.86	2.87	2.92	2.91	2.92
	実人員	86	89	91	95	92	90	95	97	105	99	107	1,148
	述べ定員数	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	1,020	1,054	1,020	1,054	952	1,054	12,410
	1日平均利用者数（人）	21.4	23.6	26.5	27.4	27.8	27.1	26.3	27.6	27.8	27.1	28.9	26.6
	稼働率	63.04%	69.35%	77.84%	80.46%	81.78%	79.61%	77.42%	81.08%	81.88%	79.60%	82.67%	78.31%

※平成27年12月22日より、定員38名から34名へ変更

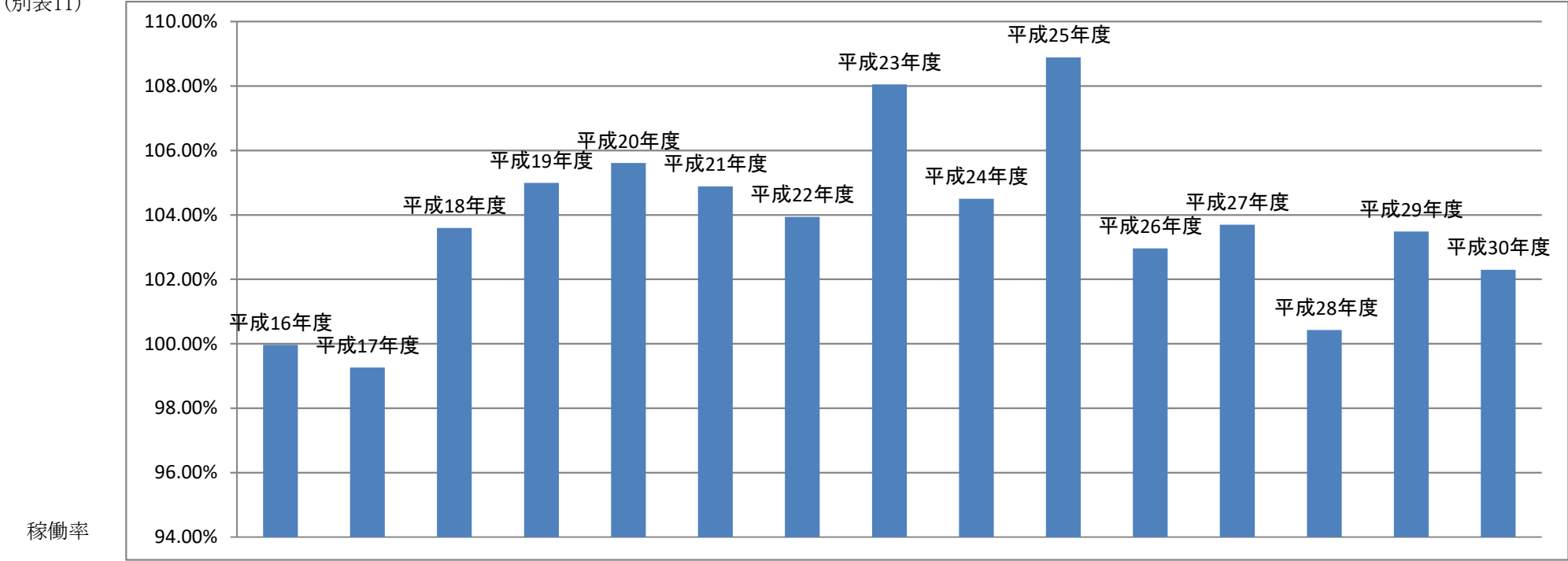
(別表9)



(別表10) <月別稼働率>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養・ショート（定員46名）	特養	1,156	1,088	977	1,113	1,107	1,027	1,054	1,064	1,065	1,003	862	922	12,438
	ショートステイ	276	301	366	382	405	372	399	387	433	475	459	481	4,736
	計	1,432	1,389	1,343	1,495	1,512	1,399	1,453	1,451	1,498	1,478	1,321	1,403	17,174
	延べ定員数	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,288	1,426	16,790
	稼働率	103.77%	97.41%	97.32%	104.84%	106.03%	101.38%	101.89%	105.14%	105.05%	103.65%	102.56%	98.39%	102.29%

(別表11)



16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
<u>99.96%</u>	<u>99.26%</u>	<u>103.59%</u>	<u>104.99%</u>	<u>105.61%</u>	<u>104.88%</u>	<u>103.93%</u>	<u>108.05%</u>	<u>104.50%</u>	<u>108.88%</u>	<u>102.96%</u>	<u>103.69%</u>	<u>100.42%</u>	<u>103.48%</u>	<u>102.29%</u>